

令和7年度 京都市立西総合支援学校 学校評価アンケート(後期)分析

- ◆実施期間 [教職員] 令和8年1月21日(水)～1月30日(金)
[保護者] 令和8年1月23日(金)～2月6日(金)
[児童生徒] 令和8年1月22日(木)～2月6日(金)
- ◆方法 アンケートフォームや紙媒体で「実現度」を5選択肢で回答
- ◆回答率 保護者 159/276 (57.4%)
児童生徒 157/276 (56.6%)
教職員 195/195 (100%)

<回答方法と回答率>

昨年度より、QRコードを紙媒体で配布するだけでなく、保護者連絡ツール「すぐーる」に回答FormsのURLを配信し、1クリックで回答ページにたどり着けるようにしました。

160の回答の内、96回答が開始から一週間に集中しており、1クリックでたどり着けるアクセスのしやすさは、今回もおおむね有効であったと考えます。

回答にかかる時間は、おおむね2～3分程度でした。今回のアンケートでは、紙媒体での回答をされた方はおられませんでした。

◆分析結果表示方法

I 保護者の実現度「よくできている」と「だいたいできている」の回答を「肯定的回答」とし、その割合を学部別に表にして示します。

- ・小数第2位で四捨五入のため、合計が100%にならない場合もあります。
- ・比較できるよう、前回(今年度前期)の割合を表示します。
- ・肯定的回答の割合が高いもの(95%以上)や前回より5%以上高くなったものを桃色で表示します。
- ・前期より肯定的回答が5%以上低くなったものを水色で表示します。

II 全保護者と教職員の回答を比較できるよう、並べて示します。

III 教職員の評価項目の実現度をグラフで表示します。

IV 児童生徒の実現度をグラフで表示します。

I 保護者の肯定的回答(全体:159/276、小:63/89、中:39/68、高:57/120)

質問項目		小学部		中学部		高等部	
		R7前期	R7後期	R7前期	R7後期	R7前期	R7後期
1	個別の包括支援プランの作成にあたって、本人・保護者の願いは反映されていますか	100	96.8	100	100	100	94.7
2	児童生徒が意欲的・主体的に取り組めるよう授業や教材に工夫が見られますか	100	93.7	94.1	94.9	88.9	93.0
3	児童生徒の発達段階に応じて将来の生活に向けた学習を設定し、各学部の卒業後に向けた適切な指導ができていますか	92.9	85.7	94.1	89.7	88.9	89.5
4	児童生徒は自分なりの方法であいさつをしていますか	82.1	85.7	82.4	92.3	96.3	87.7
5	教職員が児童生徒に接するときの言葉遣いや態度は適切ですか	100	95.2	100	89.7	92.6	96.5
6	児童生徒は自分や友達を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っていますか	85.7	84.1	70.6	87.2	77.8	80.7
7	学校では健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われていますか	96.4	96.8	100	94.9	88.9	91.2
8	発作・けが・病気等の緊急時に、保健室・看護師等と連携するなど、学校は組織的な対応をしていますか	96.4	100	88.2	97.4	96.3	89.5
9	学校の施設・設備・備品・遊具等の安全は保たれ、衛生面にも配慮されていますか	92.9	92.1	82.4	87.2	92.6	84.2
10	保護者は、子どもの教育について学校と連携、協力していますか	96.4	93.7	100	97.4	96.3	91.2
11	学校は地域と連携した取組を行い、地域との交流を深める努力をしていますか	92.9	90.5	94.1	87.2	85.2	80.7
12	学校の取組は、保護者・地域に情報発信されていますか	96.4	96.8	94.1	89.7	92.6	87.7

<保護者の肯定的回答>

前期と同様に肯定的回答の数値が全体的に高く、その中でも肯定的回答が全学部90%を超えている結果となったのが、質問項目1「個別の包括支援プランの作成にあたって、本人・保護者の願いは反映されていますか」、質問項目2「児童生徒が意欲的・主体的に取り組めるよう授業や教材に工夫が見られますか」、質問項目7「学校では健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われていますか」、質問項目10「保護者は、子どもの教育について学校と連携、協力していますか」でした。

これらの項目は、保護者と学校との連携が問われる質問項目です(質問項目1と質問項目10)。保護者との連携は児童生徒の学校での生活や学習の成果を家庭でも生かすためには必要不可欠なことです。また、保護者と学校との連携がスムーズになることで、学校での様子や学習内容等の情報をしっかりと共有できることにもつながります(質問項目2と質問項目7)。このような結果をもとに、今後も保護者の方々との連携を続けていくことが大切だと考えます。

一方で、質問項目11「学校は地域と連携した取組を行い、地域との交流を深める努力をしていますか」については、全学部においてポイントが下がっています。後期は学校行事が多かったこと、校外学習等の行事等の学部・学年内で完結する授業内容が主だったことが要因と考えられます。来年度も引き続き地域協働活動に取り組み、様々な人たちとの交流場面を設定する活動を継続していきます。

Ⅱ 全保護者・教職員の回答の比較【全体:159/276、小:63/89、中:39/68、高:57/120】

(1)「確かな学力」の育成に向けて			よく できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	わからない
1	個別の包括支援プランの作成にあたって、本人・保護者の願いは反映されていますか	保護者	66.8	30.4	1.6	0.0	1.2
		教職員	27.7	56.4	0.5	0.0	15.4
2	児童生徒が意欲的・主体的に取り組めるよう授業や教材に工夫が見られますか	保護者	61.4	32.4	1.6	1.4	3.1
		教職員	25.6	63.1	5.1	0.5	5.6
3	児童生徒の発達段階に応じて将来の生活に向けた学習を設定し、各学部の卒業後に向けた適切な指導ができていますか	保護者	48.7	39.6	2.0	0.9	8.9
		教職員	26.7	57.4	5.6	1.5	8.7

【「確かな学力」の育成に向けて】では、3つの質問項目において、保護者の肯定的回答が90%を越えているもしくは90%に迫る結果が出ています。中でも、質問項目1「個別の包括支援プランの作成にあたって、本人・保護者の願いは反映されていますか」において、「できていない」と回答された方はいないという結果は、保護者と教職員との間で本人・保護者の願いが反映され、それに基づいて個別の包括支援プランが作成されているということを示していると考えます。個別の包括支援プランをもとに次のステップに進めるよう今後も情報共有しながら学習を積み上げていきます。

一方、後述の児童生徒への学校評価アンケートの質問項目4「目標を持って生活していますか」の実現度では、肯定的回答が他の質問項目と比べると低めに出ています。また、「わからない」と答えた児童生徒が11.9%で、他の質問項目の「わからない」と比べると大きく突出しています。個別の目標について保護者と教職員で共有するだけでなく、それを児童生徒がどのように意識して日々の学校生活を過ごすか、またどのように意識しながら学習や活動に取り組むかについては、今後より一層の工夫が必要であると考えます。

(2)「豊かな心」の育成に向けて			よく できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	わからない
4	児童生徒は自分なりの方法であいさつをしていますか	保護者	39.7	48.9	4.2	0.6	6.6
		教職員	47.2	46.7	3.6	1.0	1.5
5	教職員が児童生徒に接するときの言葉遣いや態度は適切ですか	保護者	67.3	26.5	3.1	1.4	1.6
		教職員	28.2	64.1	7.2	0.0	0.5
6	児童生徒は自分や友達を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っていますか	保護者	39.8	44.2	5.9	0.0	10.1
		教職員	31.3	65.1	0.5	0.0	3.1

【「豊かな心」の育成に向けて】では、質問項目6「児童生徒は自分や友達を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っていますか」について、保護者と教職員における肯定的回答に差が見られます。目に見える形で実際の様子等を伝えることは難しい項目ではありますが、連絡帳や懇談会など折に触れて「ひと」と「ひと」とのつながりを大切にしていくことが大切であると考えます。

また、児童生徒への学校評価アンケートの質問項目7「自分や友だちを大切にしていますか」においても、肯定的回答がほぼ90%に達してはいるものの、「わからない」と回答した児童生徒も7.2%みられます。「大切にしている」ということがどういう状況を指すのか(例えば、すすんで挨拶をしていることや、友だちの発表をしっかりと見聞きしていること、友だちと協力しながら活動を行う等)を意識できるような環境(場面)設定を行いながら学習や活動を引き続き進めていきたいと考えます。

また、これはグランドデザインの中のめざす姿(子ども像)にもある、「自分や友達のできること、好きなこと、得意なことを見つける子ども」「『こうなりたい』『やってみよう』と夢や希望をもつ子ども」「友達や教職員と一緒にいろいろなことに挑戦する子ども」にもつながっていくと考えます。

(3)「健やかな体」の育成に向けて			よく できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	わからない
7	学校では健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われていますか	保護者	65.5	28.8	1.2	0.0	4.5
		教職員	40.0	49.7	6.7	0.5	3.1
8	発作・けが・病気等の緊急時に、保健室・看護師等と連携するなど、学校は組織的な対応をしていますか	保護者	71.7	23.9	0.0	0.0	4.4
		教職員	66.2	31.8	0.0	0.0	2.1
9	学校の施設・設備・備品・遊具等の安全は保たれ、衛生面にも配慮されていますか	保護者	53.0	36.3	3.2	0.0	7.5
		教職員	25.1	64.1	8.7	0.5	1.5

【「健やかな体」の育成に向けて】は、健康面、安全面についての質問となります。質問項目8では、教職員の意識は高く、また、実際に緊急時には臨機応変に対応できる姿があり、教職員は自信を持って「できている」と回答できる項目であると考えます。また、保護者の回答においても、前期と同様に肯定的回答が95%に迫る高い評価となっています。保護者が実際に対応の場面を目にすることはなかなかありませんが、緊急時の対応が必要であった際に、担任から保護者にすぐに連絡して事態を共有できているだけでなく、学校がこのあとのような対応を行うのかについての見通しが共有できていることも、前期に引き続きこの結果につながっているのではないかと考えます。また、通常の避難訓練の他にも、教職員の研修として各学部で緊急時対応シミュレーションを行い、実際に起こり得る場面を想定して、どの教職員でも緊急の場合に対応できるようにしています。

(4) 家庭や地域との連携について			よく できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	わからない
10	保護者は、子どもの教育について学校と連携・協力していますか	保護者	48.5	45.6	3.1	0.0	2.8
		教職員	31.3	57.4	0.5	0.0	10.8
11	学校は地域と連携した取組を行い、地域との交流を深める努力をしていますか	保護者	48.0	38.1	1.7	0.0	12.2
		教職員	49.2	43.1	1.5	0.5	5.6
12	学校の取組は、保護者・地域に情報発信されていますか	保護者	55.3	36.1	2.8	0.0	5.7
		教職員	48.7	45.1	2.1	0.0	4.1

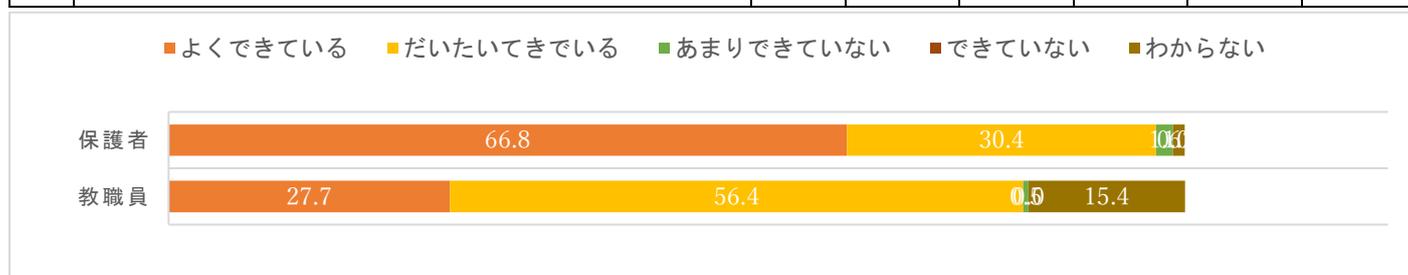
【家庭や地域との連携について】では、質問項目12の「学校からの情報発信」については、保護者・教職員ともに肯定的回答が多くあります。学校での活動の様子を広報していくことについては、学校ホームページや保護者連絡ツールである「すぐーる」といった情報媒体の活用だけでなく、学校だよりの充実を図りながら、引き続きタイムリーな情報発信をさらに続けていきたいと思えます。

質問項目10「学校との連携・協力」については、【「確かな学力」の育成に向けて】と同様に保護者の肯定的回答が95%に迫る結果となっています。個別の包括支援プランの「三者の願い」だけでなく、日々の学校・家庭での様子等のやり取りを密にしながら、引き続き連携を進めていくことを意識したいと考えます。

質問項目の11「地域との交流」については、保護者の肯定的回答が全学部において前期より下がっていました。その理由の分析については、【I 保護者の肯定的回答】でも触れていますが、学部・学年での行事や活動が多かったことが要因の一つではないかと考えます。地域との連携については、昨年度から学校運営協議会の方々の協力を得ながら広くすすめており、「みらいを創るプロジェクト」構想の一環として地域協働活動の拡充を今後も取組を充実させながらすすめていきます。

Ⅱ 全保護者・教職員の回答の比較【全体 159/276、小:63/89、中:39/68、高:57/120】

(1)「確かな学力」の育成に向けて			よく	だいたい	あまり	できていない	わからない
			できている	できている	できていない	できていない	
1	個別の包括支援プランの作成にあたって、本人・保護者の願いは反映されていますか	保護者	66.8	30.4	1.6	0.0	1.2
		教職員	27.7	56.4	0.5	0.0	15.4



2	児童生徒が意欲的・主体的に取り組めるよう授業や教材に工夫が見られますか	保護者	61.4	32.4	1.6	1.4	3.1
		教職員	25.6	63.1	5.1	0.5	5.6



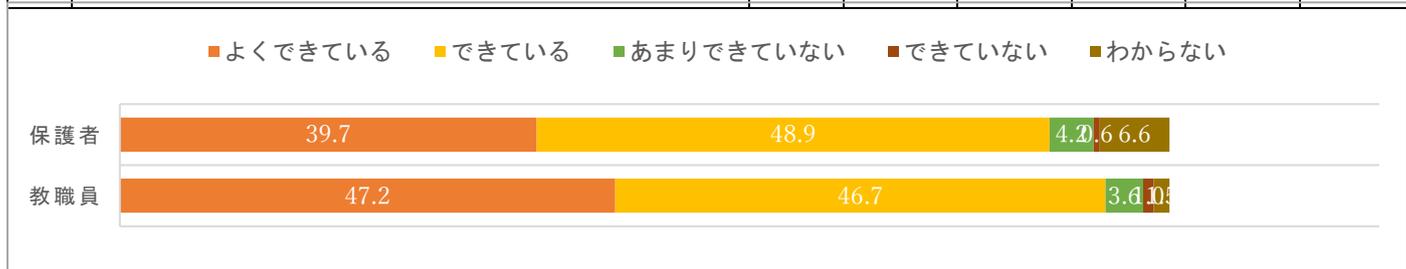
3	児童生徒の発達段階に応じて将来の生活に向けた学習を設定し、各学部の卒業後にに向けた適切な指導ができていますか	保護者	48.7	39.6	2.0	0.9	8.9
		教職員	26.7	57.4	5.6	1.5	8.7



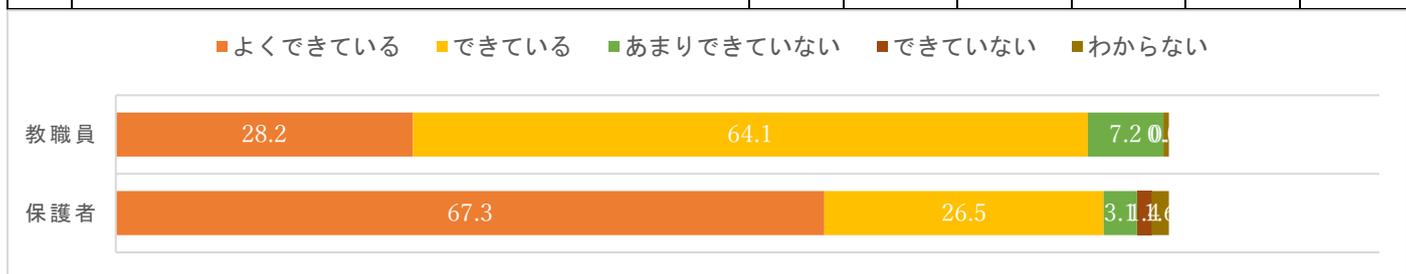
【「確かな学力」の育成に向けて】では、3つの質問項目において、保護者の肯定的回答が90%を越えているもしくは90%に迫る結果が出ています。中でも、質問項目1「個別の包括支援プランの作成にあたって、本人・保護者の願いは反映されていますか」において、「できていない」と回答された方はいないという結果は、保護者と教職員との間で本人・保護者の願いが反映され、それに基づいて個別の包括支援プランが作成されているということを示していると考えます。個別の包括支援プランをもとに次のステップに進めるよう今後も情報共有しながら学習を積み上げていきます。

一方、後述の児童生徒への学校評価アンケートの質問項目4「目標を持って生活していますか」の実現度では、肯定的回答が他の質問項目と比べると低めに出ています。また、「わからない」と答えた児童生徒が11.9%で、他の質問項目の「わからない」と比べると大きく突出しています。個別の目標について保護者と教職員で共有するだけでなく、それを児童生徒がどのように意識して日々の学校生活を過ごすか、またどのように意識しながら学習や活動に取り組むかについては、今後より一層の工夫が必要であると考えます。

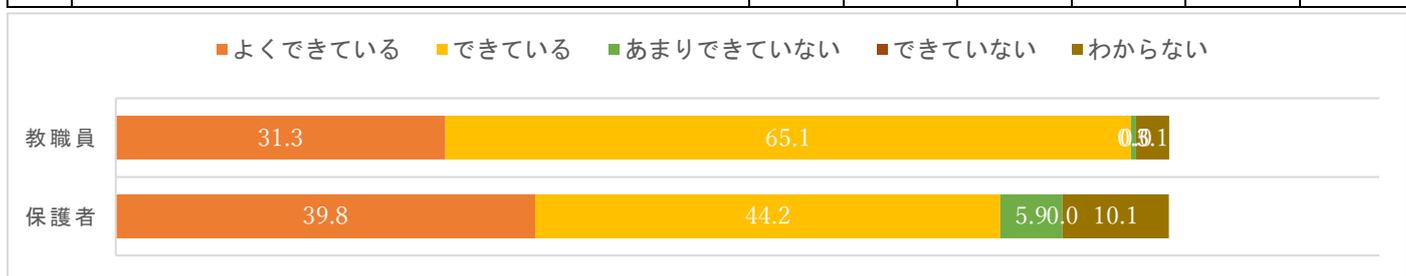
(2)「豊かな心」の育成に向けて			よく	だいたい	あまり	できていない	わからない
			できている	できている	できていない	できていない	
4	児童生徒は自分なりの方法であいさつをしていますか	保護者	39.7	48.9	4.2	0.6	6.6
		教職員	47.2	46.7	3.6	1.0	1.5



5	教職員が児童生徒に接するときの言葉遣いや態度は適切ですか	保護者	67.3	26.5	3.1	1.4	1.6
		教職員	28.2	64.1	7.2	0.0	0.5



6	児童生徒は自分や友達を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っていますか	保護者	39.8	44.2	5.9	0.0	10.1
		教職員	31.3	65.1	0.5	0.0	3.1

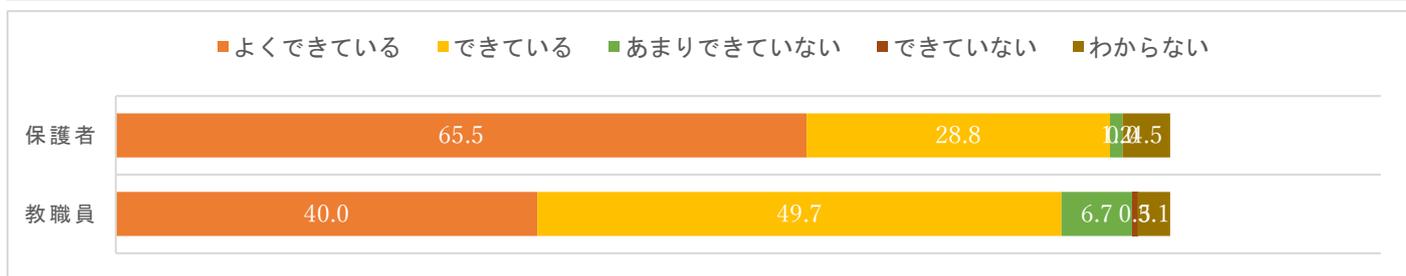


【「豊かな心」の育成に向けて】では、質問項目6「児童生徒は自分や友達を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っていますか」について、保護者と教職員における肯定的回答に差が見られます。目に見える形で実際の様子等を伝えることは難しい項目ではありますが、連絡帳や懇談会など折に触れて「ひと」と「ひと」とのつながりを大切にしていくことが大切であると考えます。

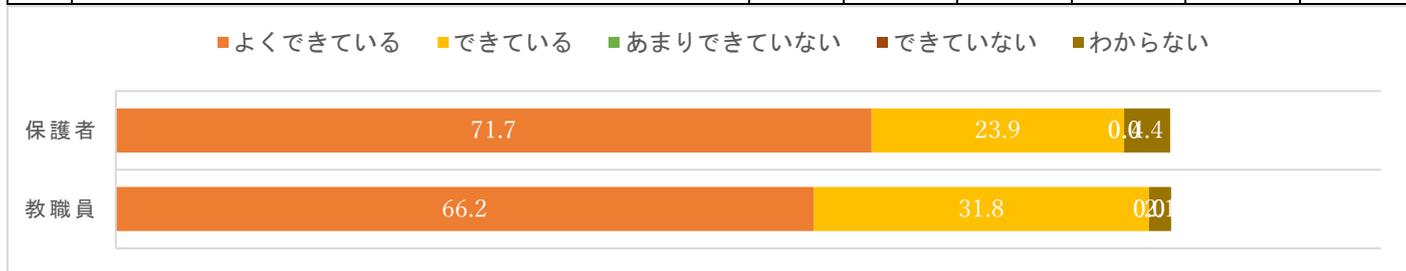
また、児童生徒への学校評価アンケートの質問項目7「自分や友だちを大切にしていますか」においても、肯定的回答がほぼ90%に達してはいるものの、「わからない」と回答した児童生徒も7.2%みられます。「大切にしている」ということがどういう状況を指すのか(例えば、すすんで挨拶をしていることや、友だちの発表をしっかりと見聞きしていること、友だちと協力しながら活動を行う等)を意識できるような環境(場面)設定を行いながら学習や活動を引き続き進めていきたいと考えます。

また、これはグランドデザインの中のめざす姿(子ども像)にもある、「自分や友達のできること、好きなこと、得意なことを見つける子ども」「『こうなりたい』『やってみよう』と夢や希望をもつ子ども」「友達や教職員と一緒にいろいろなことに挑戦する子ども」にもつながっていくと考えます。

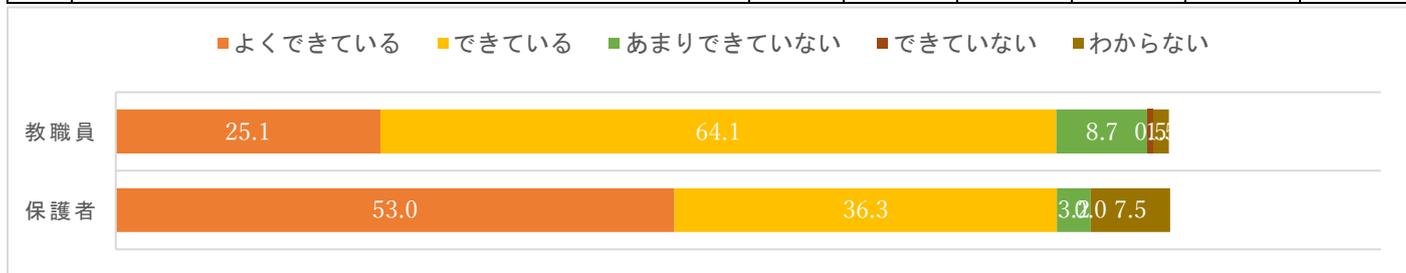
(3)「健やかな体」の育成に向けて			よく できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	わからない
7	学校では健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われていますか	保護者	65.5	28.8	1.2	0.0	4.5
		教職員	40.0	49.7	6.7	0.5	3.1



8	発作・けが・病気等の緊急時に、保健室・看護師等と連携するなど、学校は組織的な対応をしていますか	保護者	71.7	23.9	0.0	0.0	4.4
		教職員	66.2	31.8	0.0	0.0	2.1

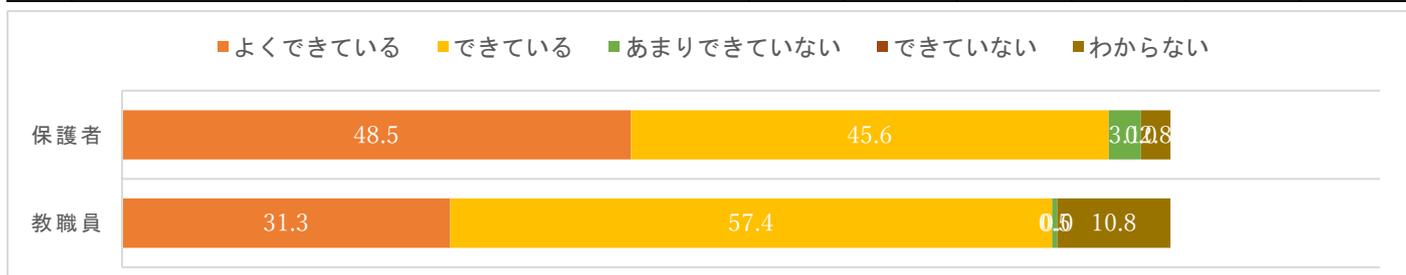


9	学校の施設・設備・備品・遊具等の安全は保たれ、衛生面にも配慮されていますか	保護者	53.0	36.3	3.2	0.0	7.5
		教職員	25.1	64.1	8.7	0.5	1.5

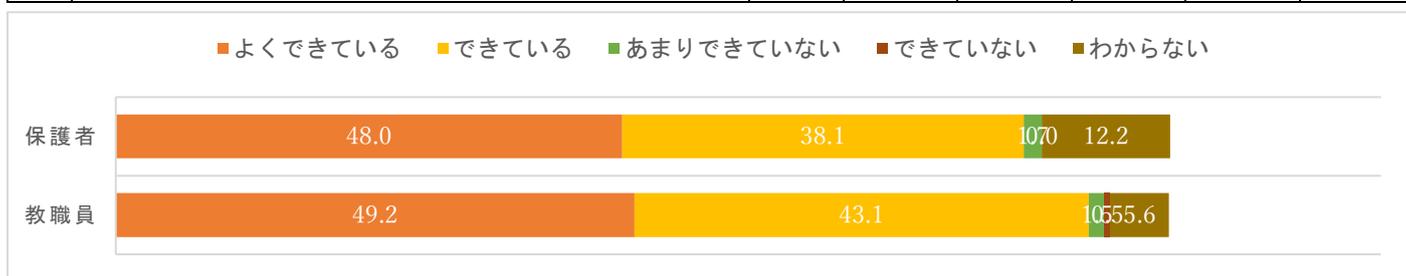


【「健やかな体」の育成に向けて】は、健康面、安全面についての質問となります。質問項目 8 では、教職員の意識は高く、また、実際に緊急時には臨機応変に対応できる姿があり、教職員は自信を持って「できている」と回答できる項目であると考えます。また、保護者の回答においても、前期と同様に肯定的回答が95%に迫る高い評価となっています。保護者が実際に対応の場面を目にすることはなかなかありませんが、緊急時の対応が必要であった際に、担任から保護者にすぐに連絡して事態を共有できているだけでなく、学校がこのあとのような対応を行うのかについての見通しが共有できていることも、前期に引き続きこの結果につながっているのではないかと考えます。また、通常の避難訓練の他にも、教職員の研修として各学部で緊急時対応シミュレーションを行い、実際に起こり得る場面を想定して、どの教職員でも緊急の場合に対応できるようにしています。

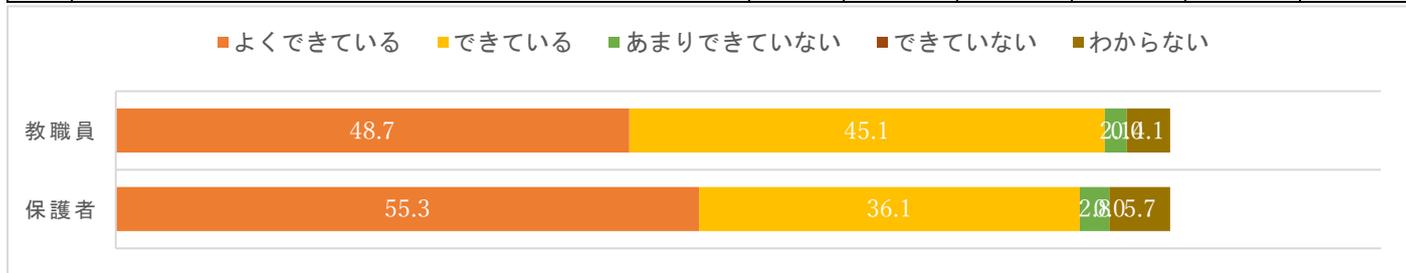
(4) 家庭や地域との連携について			よく できている	できて いる	あまり できて いない	できて いない	わから ない
10	保護者は、子どもの教育について学校と連携、協力していますか	保護者	48.5	45.6	3.1	0.0	2.8
		教職員	31.3	57.4	0.5	0.0	10.8



11	学校は地域と連携した取組を行い、地域との交流を深める努力をしていますか	保護者	48.0	38.1	1.7	0.0	12.2
		教職員	49.2	43.1	1.5	0.5	5.6



12	学校の取組は、保護者・地域に情報発信されていますか	保護者	55.3	36.1	2.8	0.0	5.7
		教職員	48.7	45.1	2.1	0.0	4.1



【家庭や地域との連携について】では、質問項目12の「学校からの情報発信」については、保護者・教職員ともに肯定的回答が多くあります。学校での活動の様子を広報していくことについては、学校ホームページや保護者連絡ツールである「すぐる」といった情報媒体の活用だけでなく、学校だよりの充実を図りながら、引き続きタイムリーな情報発信をさらに続けていきたいと思えます。

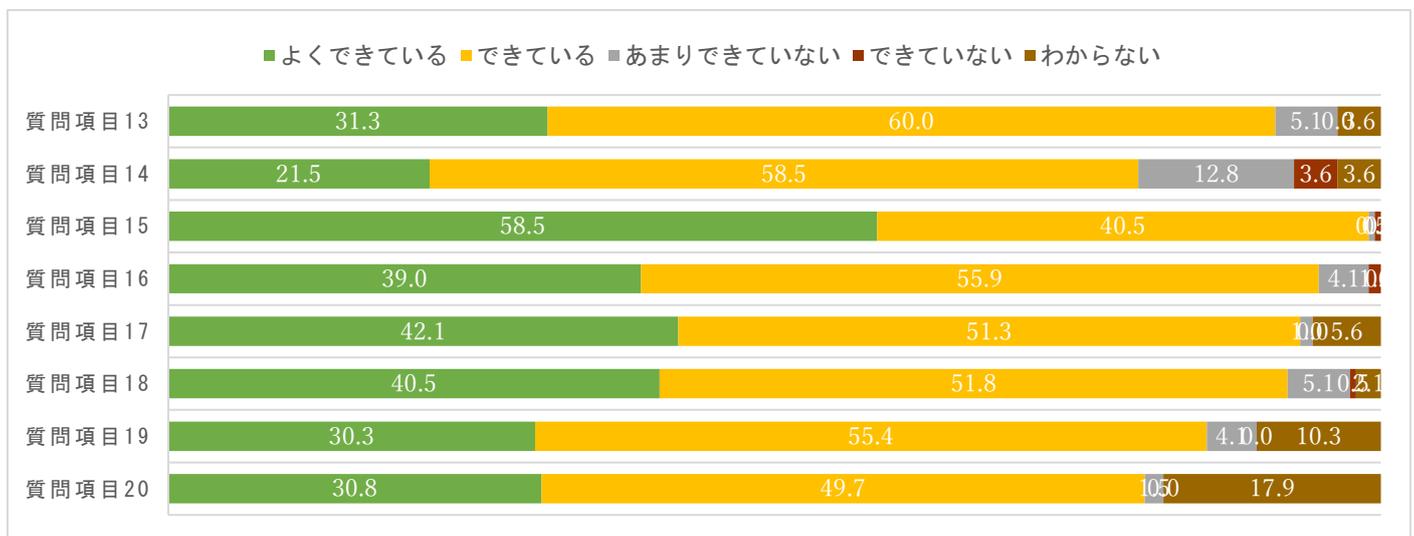
質問項目10「学校との連携・協力」については、【「確かな学力」の育成に向けて】と同様に保護者の肯定的回答が95%に迫る結果となっています。個別の包括支援プランの「三者の願い」だけでなく、日々の学校・家庭での様子等のやり取りを密にしながら、引き続き連携を進めていくことを意識したいと考えます。

質問項目の11「地域との交流」については、保護者の肯定的回答が全学部において前期より下がっていました。その理由の分析については、【I 保護者の肯定的回答】でも触れていますが、学部・学年での行事や活動が多かったことが要因の一つではないかと考えます。地域との連携については、昨年度から学校運営協議会の方々の協力を得ながら広くすすめており、「みらいを創るプロジェクト」構想の一環として地域協働活動の拡充を今後も取組を充実させながらすすめていきます。

Ⅲ 教職員の評価項目の実現度

(回答数 全教職員:195/195)

教職員 みの学校評価アンケート質問項目		よく できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	わからない
13	学校教育目標(自分に自信をもち、夢や希望に向かって、挑戦する子どもを育てる～笑顔 あふれる 西総合～)を意識して、教育活動に取り組んでいますか	31.3	60.0	5.1	0.0	3.6
14	専門性向上のための研修会や学習会等に積極的に参加し、自己研鑽を行なっていますか	21.5	58.5	12.8	3.6	3.6
15	服務規定を順守し、各種文書・個人情報等の適切な管理と手続きができていますか	58.5	40.5	0.5	0.5	0.0
16	物品の整理整頓、丁寧な扱いを行い、現有物品の有効活用をすすめていますか	39.0	55.9	4.1	1.0	0.0
17	児童生徒の些細な変化や困りに気づき、いじめにつながる事案を早期発見し、対応できるように努めていますか	42.1	51.3	1.0	0.0	5.6
18	報告・連絡・相談を意識した、風通しの良い職場づくりができていますか	40.5	51.8	5.1	0.5	2.1
19	児童生徒が地域社会の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための視点が教育活動に反映されていますか	30.3	55.4	4.1	0.0	10.3
20	市民・他校種・関係機関等からの相談に丁寧に応えていますか	30.8	49.7	1.5	0.0	17.9

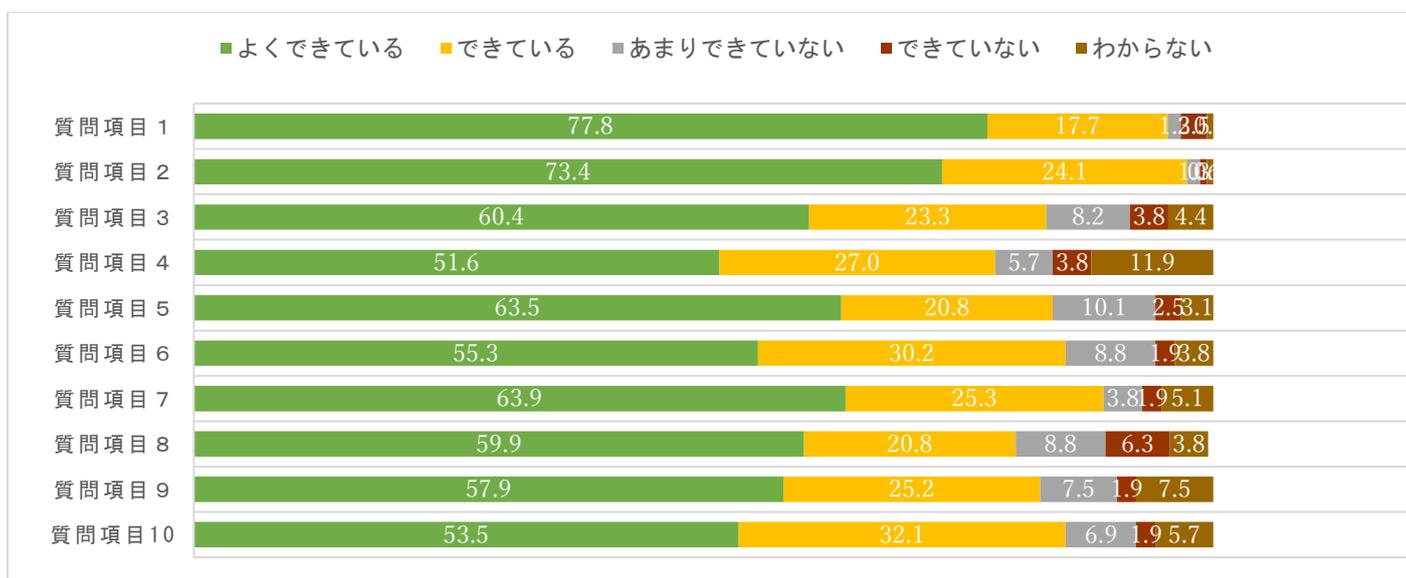


ここでは、教職員のみ質問したアンケートを記載しています。質問項目13では、質問文に学校教育目標そのものを追加表記しています。「～笑顔 あふれる 西総合～」というキャッチフレーズがある学校目標は、児童生徒にも伝わりやすい学校教育目標なのではないかと考えます。どの質問項目も、肯定的回答が多くありますが、質問項目14では「あまりできていない」が他の項目に比べると突出しています。国を挙げて「働き改革」が提唱され、本校でも様々な業務改善を推進しており、教職員個々のワーク・ライフバランスをどのように充実していくかについて、試行錯誤している最中です。一方で自己研鑽のための時間をどのように保障していくのかについては、喫緊の課題です。また、質問項目20については、全ての教職員が直接にかかわっている具体的な感覚をもちづい内容であるため「わからない」が多く出ているようです。

IV 児童生徒の実現度

(回答数 全児童生徒:157/276 小学部:44/89 中学部:42/67 高等部:71/120)

児童生徒への学校評価アンケート質問項目		よく できている	だいたい できている	あまり できていない	できていない	わからない
1	学校は 楽しいですか	77.8	17.7	1.3	2.5	0.6
2	先生は わかりやすく 教えて くれますか	73.4	24.1	1.3	0.6	0.6
3	自分から すすんで 勉強 していますか	60.4	23.3	8.2	3.8	4.4
4	目標を 持って 生活 していますか	51.6	27.0	5.7	3.8	11.9
5	自分から あいさつを していますか	63.5	20.8	10.1	2.5	3.1
6	家でも 学校でも きまりや ルールを 守って 生活 していますか	55.3	30.2	8.8	1.9	3.8
7	自分や 友だちを 大切に していますか	63.9	25.3	3.8	1.9	5.1
8	好き嫌いせず になんでも 食べて いますか	59.9	21.0	8.9	6.4	3.8
9	規則正しい 生活は できて いますか	57.9	25.2	7.5	1.9	7.5
10	校内や 教室を 掃除し きれいに する ことが できて いますか	53.5	32.1	6.9	1.9	5.7



今回の回答率は56.6%となり、前期の72%を大きく下回る結果となりました。事前に実施期間を周知していたものの、実施する時期や期間に要因があったと考えます。このことを踏まえ、次年度の改善につなげていきます。

児童生徒の回答方法については、GIGA 端末 (タブレット型端末) を用いることで回答しやすくなっていることから、今後も継続して取り組んでいきます。

どの回答も肯定的回答が多くあります。一方で、『『確かな学力』に向けて』でも述べたように質問項目4では、「わからない」と回答した児童生徒が多くみられます。今、頑張っていること、頑張れたことをその時々言語化して伝えることを通して共感していくことで、達成感や今後のめあても明らかになっていくのではないかと考えます。

「よくできた」の回答が一番多い項目は、質問項目1「学校は楽しいですか」であることがとても喜ばしく思います。これからも「今日も学校は楽しかった」、「来てよかった」と思えるような毎日の学校生活を送ることができるようにしていきます。